

第29回 第2章 現代の経済

第4節 福祉社会と日本経済の課題

農業・食料問題

講師
赤荻雅己

学習のねらい

私たちの「食」を支える日本の農業にはさまざまな課題があります。農業に携わる人が減っていること、輸入食料に押されていること、そして農業政策はどうなっているのか、こうしたことを学びながら、これからの農業について考えていきましょう。

調べておこう
覚えておこう

農家の高齢化／六次産業化／後継者不足／
食糧管理制度／地産地消／減反政策／
食料安全保障／食料・農業・農村基本法／

※下記の空欄 _____ を「調べてみよう 覚えておこう」の語句で完成させましょう。

POINT 1

日本の農業の今は？

現在、農業で働いている人は175万人で60年前の高度経済成長のころと比べると8分の1に減りました。その理由の1つは農業の収入が低く不安定なことにあります。製造業やサービス業が発展し、農業との収入の格差が広がりました。その結果、働き手が農業を離れ、ほかの産業で働くようになりました。もう1つの理由は、輸入食料が増えたことです。パン食など食生活が多様化し、食料の輸入が増えました。その結果、安価な海外の農産物が選択され、国産の農産物の地位が低下しました。また、新しく農業を志す人が少ない^① _____ として、平均年齢が66歳を超える^② _____ が課題となっています。

POINT 2

農業政策の歩み

第二次世界大戦後、政府は^③ _____ を運用し、主食である米を安定して供給することに努めました。政府が生産者から米を買い、消費者に安く供給するしくみで、戦後の困窮した時代、国民は大いに助かりました。しかしその後は消費者の米離れが進み、政府は多くの在庫米を抱えるようになり赤字が増大し、この制度は1995年に廃止されました。

米が余るようになると、米の価格が下がり、農家の生計が危うくなります。そこで1970年代から^④ _____ が始まりました。これは水田の作付けを制限して、他の作物への転作を促す政策です。この政策は米とともに、野菜や果樹など多角的に経営する農家を増やす一方、農村の過疎、後継者不足などの問題を残しました。

